

第40回民医連の医療と研修を考える医学生のつどい
～一人ひとりが幸せに生きるために医師としてできること～



12月つどい 「人権を守るためにアドボケイト～LGBTQs～」
in 熊本

つどい Walker

皆さんこんにちは。



岡山大学3年の荒木さくらと、

鳥取大学2年の藤井幹（ふじい 幹）です。



2019年12月14日-15日に熊本にて、40回目の民医連の医療と研修を考える医学生のつどいの第2回目が開催されました。今年の年間テーマは「一人ひとりが幸せに生きるために医師としてできること」です。

【40つどい年間獲得目標】

- ・医師の社会的役割を踏まえ、自分の医師像を考え続けよう
- ・人権感覚や多様性を尊重する価値観を身につけ、一人ひとりの困難に寄り添おう
- ・一人ひとりの幸せを阻害する背景にある社会構造に目を向け、改善に取り組もう
- ・地域で学んだことをつどいに持ち寄り、つどいで学んだことを地域に持ち帰ろう
- ・将来にわたって互いに信頼し高めあえる仲間をつくろう



1日目 学習企画

講演：「医療現場で LGBTQs の人権を考える」伊藤悟氏（すこたんソーシャルサービス）
「LGBTQs とアドボカシー」菊池 修治医師（茨城・城南病院）



講演では、伊藤悟氏には歴史的に主流の文化から外れるセクシュアルマイノリティは過去から現在まで絶えず存在していて、当事者がどのように闘い権利を獲得してきたかについて、実体験を交えながら説明していただきました。その中で繰り返し、「当事者に寄り添う際のマニュアルなどはない。自分の普通や習慣を常に問う事が不可欠だ。」と仰っていました。また、菊池修司医師には医療者としてどのように伊藤悟氏が話されたような人権問題に関わってきたのか、実際に例を提示して頂きながら説明していただきました。

SGDでは、講演内容を踏まえて LGBTQs が抱えている困難はどんなものがあるか挙げ、その背景には何があり、どうしたら変えられるのか、そして医師はなぜこの困難に介入する必要があるのかについて考えました。多くの班で困難の背景として教育の不足・社会制度の不足・メディアの問題が挙げられ、解決しなければ医療格差、つまり医療における貧困に繋がり、また当事者が社会との接点を失い孤独・孤立する事で関係における貧困にも繋がるため、医師はこの問題にアプローチする必要があるという意見が挙げられていました。



	性自認	性的指向
レズビアン	女性	女性
ゲイ	男性	男性
バイセクシュアル	個人による	女性と男性
トランスジェンダー	出生時の性別と異なる	個人による



2日目 1部 講演「水俣病患者との出会い」板井八重子医師（熊本・くすのきクリニック）

2部 “私たちのプロジェクトシートを作ろう！”



担当は岡山大学3年の荒木です。

板井八重子医師の講演を聞き、アドボケイト（代弁者、擁護者）として医師に求められる姿勢と自分の将来の医師像を考えました。

水俣での患者さんとの出会い、そこで奮闘する医療スタッフとの出会いの中で、医療者として求められる事にこたえる姿勢と葛藤について話して頂きました。

講演の後は、水俣病での実践を例に LGBTQs でのアドボケイトを考えました。そして、各グループを医療機関のプロジェクトチームと仮定し、どんな取り組みを行うのか、どんな規模で行うのかなどを話し合い、さらに医師としての役割を具体的なものにするために、プロジェクトシートを作成しました。具体的に考える事で、実際の取り組みの様子を思い浮かべやすい部分もあれば、普段あまり考える事のないテーマで議論が難しい部分もありました。



今回、私にとっては医師という職業を改めて考え直す機会となりました。医師は健康へのサポートをする仕事だと思いますが、健康は身体的、精神的、社会的因素を含んでおり、相手の状況や相手が何を大事にしているかで、その人にとっての健康は異なるのではないかと思います。

一方的に価値観を押し付けることで相手を傷つけることがあり、病院で医療者が相手を阻害する態度で接することは、相手を医療から遠ざけることにつながり得ます。

医師という職業が「医療行為、病院のルール」という理由で相手の要求や人権を無視することもできる存在であることに改めて気づかされました。相手の求めることを知ろうとする態度、相手の思いに気づくことが信頼関係を築くのだと思います。時代によっても医療の在り方、求められる医師は変化していきます。

新たな価値観を知り、今の自分はどんな医師を目指したいのかを考える機会となりました！



「一人ひとりが幸せに生きるために 医師としてできること」

第40回医学生のつどいの集大成が **3月つどい**です！被災地で医療活動を続けている医師の講演や現地でのフィールドワークを企画しています。これまでに学んだ SDH の視点で医療を実践する事、医師として社会へアドボケイトする必要性、人権感覚と多様性を尊重し、目の前の人の困難に寄り添い、ひとり一人の幸せのために医師として何が出来るのか一緒に考えましょう！

3月 20-22 日 in 福島

